

エトキサゾール水和剤 バロックフロアブル	取扱メーカー： 協友アグリ、一農 原体メーカー： 協友アグリ
成分： エトキサゾール〔オキサゾリン系〕……………10.0%	性状： 類白色水和性粘稠懸濁液体 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

- ハダニ類の卵及び幼若虫に対し、優れた効果を示す。成虫に対する直接の殺虫効果はないが、本剤を処理された雌成虫が産んだ卵はふ化しない。
- 速効性に欠けるが、殺卵、殺幼若虫効果が長続きするので、ハダニの増殖を長期間抑える。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 使用前には必ず容器をよく振り、使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- 散布は年1回とし、作用性の異なる他の薬剤との輪番で使用する（抵抗性発達回避）。
- 植物体への浸透移行性がないので、かけ残しのないよう葉の裏表に十分散布する。
- ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に散布ムラのないように丁寧に散布する。
- 殺卵・殺幼若虫力は強いが、殺成虫力に欠け遅効的であるため、誤ってまき直しなどしないよう注意する。

【薬効・薬害等の注意】……………

- ボルドー液との混用はさける（効果）。
- ボルドー液との近接散布については下記注意事項を厳守する。I Cボルドーも同様に扱う。

〈かんきつ〉

- 本剤を散布した後にボルドー液を使用する場合、2週間以上の散布間隔をあける。
- ボルドー液を散布した後に本剤を使用する場合は2カ月以上あけて散布する。

〈りんご〉

- 本剤を散布した後にボルドー液を使用する場合、2週間以上の散布間隔をあける。
- ボルドー液を散布した後に本剤は使用しない。

〈なし・もも・おうとう〉

- 本剤を散布した後にボルドー液を使用する場合、2週間以上の散布間隔をあける。
- ボルドー液を散布した後に本剤は使用しない。但し発芽期のボルドー液の散布は本剤の効果には影響しない。

〈ぶどう〉

- ぶどうに使用する場合、幼果期以降での使用は、果粉溶脱を生じる場合があるので注意する。

〈茶〉

- 春期防除における水酸化第二銅製剤との混用はさける。
- 本剤を散布した後に水酸化第二銅製剤を使用する場合、1週間以上の散布間隔をあける。
- 水酸化第二銅製剤を散布した後に本剤を使用する場合は、2週間以上散布間隔をあける。
- 共通注意事項8、適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】……………

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 甲殻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意。



【適用と使用法】

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用 方法	エトキサゾールを含 む農薬の総使用回数			
かんきつ (みかんを除く)	ミカンハダニ	2000 ～ 3000 倍	200 ～ 700 ℓ	14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内			
	ミカンサビダニ	2000 倍								
みかん	ミカンハダニ	2000 ～ 3000 倍		前日まで						
	ミカンサビダニ	2000 倍								
りんご	リンゴハダニ	2000 ～ 3000 倍		14 日前まで						
	ナミハダニ	2000 倍		7 日前まで				1 回	2 回以内	1 回
なし	ハダニ類									
もも	モモサビダニ									2 回以内
すもも ネクタリン	ハダニ類									
					ぶどう					
びわ	ミカンハダニ									
おうとう	ハダニ類			14 日前まで	1 回		2 回以内	1 回		
いちじく				前日まで						
マンゴー				7 日前まで	2 回以内		2 回以内			
きゅうり				100 ～ 350 ℓ	前日まで		1 回	1 回		
すいか							2 回以内	2 回以内		
メロン		1 回	1 回							
なし		2 回以内	2 回以内							
すいちご										
とうがん		3000 倍			2 回以内		2 回以内			
しそ										
きく(葉)		2000 倍	100 ～ 300 ℓ		前日まで 但し、伏せ込 み栽培は伏せ 込み前まで	2 回以内				
かんしょ										
みつば	3000 倍		7 日前まで 3 日前まで							
あずき	2000 倍									
食用ミニバラ										
茶	カンザワハダニ	1000 ～ 3000 倍	200 ～ 400 ℓ	摘採 14 日前まで	1 回	1 回				
ホップ	ハダニ類	2000 倍	200 ～ 700 ℓ	7 日前まで						
花き類・ 観葉植物			100 ～ 300 ℓ	発生初期						
樹木類			200 ～ 700 ℓ							